レポート

第一回ヨーロッパ日本人キリスト者の集い

主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ　エペソ四・5

今年の夏も日本中で伝道キャンプや聖会が持たれ、各地で私達の主イエス・キリスト様の御名がほめたたえられた事と思います。ここ西ドイツ、デュッセルドルフ近郊のラングンベルグでも主の大きな祝福を受けて一つの歴史的な集会が持たれていますので現地からレポートいたします。

大きなドイツかしの木などに囲まれたこの会場に、今フランス・パリ日本人教会、西ドイツ・デュッセルドルフ日本人教会、フランクフルト家庭集会、オランダ・アムステルダム、アイントホーフェン両家庭集会、オーストリー・ザルツブルグ聖書研究会などから五十人のキリスト者・求道者が、四十人の子供達と共に集まっています。ヨーロッパ各地に散らされた日本人キリスト者が、この様に一堂に会して共に交わりを持ち、一つになって神様の前に立てる事を、誰が予想できたでしょう。

ヨーロッパには、日本の経済進出に伴い、この十年程の間に非常に多くの日本人が住むようになってきました。神様はそういった日本人の中にも主を求め、主を崇める者達を起こして下さり、西ドイツ、フランス、オーストリー、スペイン、イギリスなどに主につながる群を立てて下さいました。パリの教会については、百万人の福音七月号に作田姉妹によるおあかしが掲載されていましたが、各教会・集会ともその成立の背後には御臨実なる主イエス様の確かなる御導きと、多くの方々の祈りとが積み重ねられてきたのです。

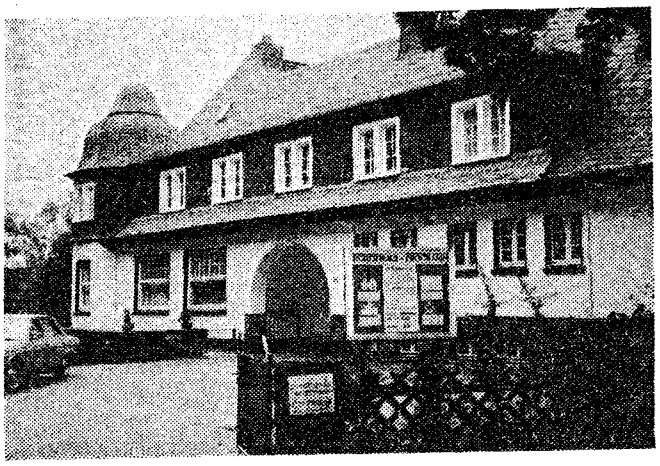
共に主にあって一つである

今回、ヨーロッパ各地に遣わされている日本人が一度集まり、共に主にあって一つであることを確認し合い、これまでに与えられた主の恵みの足跡をふり返って共に主に感謝し、今後の各集会の行くべき道をみことばから学ぶというねらいでこの第一回のヨーロッパ日本人キリスト者の集いが開かれたわけです。

八月三日～五日の集会には、各地の教会（Gemeinde）の感謝の報告あり、バイブルスタディあり、聖日礼拝ありで、主の恵みが会場一杯に満ち溢れています。講師にも恵まれ、デュッセル、パリの両牧師はもちろんの事、西ドイツ、ルーテル教会の宣教師訓練センターで責任者として奉仕しておられる平田正信先生、ノルウエーに居を構えヨーロッパ中にあかしをして回っておられる霊満クルセードの安部哲兄、すばらしい会場を提供して下さった堀江兄（西ドイツですばらしい働きをしておられるクリスチャン精神科医）など、お一人おひとりを通して語られる神様のみことばは、聞く者の心にビンビンと響くものであり、今後の生活に深くかかわって行く道を整え、あるいは進路を変えさせる力のあるものでした。

最終日は聖日にあたり、一同で共に礼拝をささげる計画でしたが当地の教会からの申し出により、ドイツ人の信徒と共に礼拝をもつことになりました。この礼拝は、主がそのまん中に立って下さり、司会の作田兄、通訳の堀江兄生を導き、讃美歌九番などをドイツ語と日本語の両方で賛美し、共に心を合わせて祈る中に完全に主にあって一つ思いとさせて下さいました。メッセージも平田兄を主がお立て下さって、日本語とドイツ語で交互にお話し下さり、マタイ二〇章から「仕える者」になりなさいと勧められました。太田牧師の司式によるところの聖さん式は、期待以上に主が祝福して下さり、一同がはっきりと主のご臨在に触れ、求道者が悔い改めを導かれ、皆が涙で自を真赤にしながら感謝と願いを真剣に神様に祈るひとときとなりました。

私達は「交わりとみことばによるところのビジョン」を目標にしてヨーロッパ各地から集まってきたわけですが、主がその目標を充分に満たして余りあるだけの祝福を下さいました。今、ここの集会には、日本イエス、ルーテル、聖公会、日基、ブラザレン、ホーリネス、福音自由、そしてこちらで救われて洗礼を受けられた方など実に多彩なメンバーが集まっています。それが外地であるが故に一つとされ、実に具体的に「主は一つであり、信仰は一つ、そしてバプテスマも一つ」であることを体験させていただいているわけです。天国には教派はないと思うのですが、その前味をこの様な形で味わわせていただき本当に幸いな恵みを感謝しています。



集いが開かれた「ホルトハウス」

主からビジョンを与えられ

今後の歩みについて、デュッセルは、牧師が来春二月頃帰国される事になり後任牧師が与えられるように祈りつつマケドニアの叫びをあげているところですし、五人の役員の内四人が来年までに帰国するという状態で、今後の為に祈っているところです。パリの教会は祈りが満ちて会堂が与えられ、いよいよ新しいステップに進む時です。フランクフルトも一年半導かれてきた家庭集会を今後どの様に発展させていくか神様の導きを求める大切な時期、オランダも細い糸ではあっても決して切れる事なく続けられてきた家庭集会を今後発展させていく為にどうしたらよいかという事を求めているところだったのです。主はその様な時にこの集会を開かせて下さり、それぞれの教会がこの場で主からのビジョンをいただき、いよいよ主の器として用いていただける様にしていただこうとの祈りを導いて下さいました。

今回は第一回と名付けましたが、今後もこれが継続されて、更に深い交わりと学びができるように願っています。そして今回参加できなかったケルン・ボン、デトモルト、ウィーンなどの集会も一つとなって集まり、日本人キリスト者が主にあって一つになれるというあかしを立てていきたいものだと思います。

ヨーロッパは、外地であるが故に日本では考えもしなかった様なことに気づかされたり、人生を見直したりする機会の多い所です。そういった意味でも、ヨーロッパの日本人社会は、土壌の肥えた宣教地であるといえます。

どうぞこの様な形での海外宣教の必要を覚えて下さり、一つ一つの群のために祈り支えて下さる様にお願い致します。

（文責　伊藤和人）

〈ヨーロッパの連絡先〉

T. Ota Marschall str. 13 1000 Dusseldorf W GERMANY

G. Sakuta 8 Residence de la Thebillerie 91130 Ris Orangis FRANCE